神奈川県水産技術センターメルマガ 163-165

no163 2006 年 9 月 29 日 P1
また一人の漁師が・・・漁業者の事故に思う
相模湾西岸のアカナマコ

no164 2006 年 10 月 6 日 P4
昨今の漁具開発研究について
「思考能力が低下します・・・」

no165 2006 年 10 月 13 日 P6
コイがハゼになる？
内水面試験場の夏休み

掲載日：2014年2月21日

神奈川県水産技術センター メルマガ163

神奈川県水産技術センターメルマガ　VOL.163 2006-9-29

－－ Fish-mag >°)))< －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
／KN／　神奈川県水産技術センターメールマガジン　 VOL.163 2006-9-29
~~~~~~
□研究員コラム
○また一人の漁師が・・・漁業者の事故に思う　（相模湾試験場　川原　浩）
○相模湾西岸のアカナマコ　（相模湾試験場　木下　淳司）

○また一人の漁師が・・・漁業者の事故に思う
（相模湾試験場　川原　浩）

県に勤めて２９年。異動を重ね各地で多くの漁業者と知り合うと共に幾度かの事故による別れを経験してきたが、後で人伝てで知ることが大半で勤務地で直に経験したことは無かった。

しかし、残念なことに今回の小田原勤務で初めて、漁業者が漁に出て、帰ってこないと言う事故が起きた。

彼は、タカアシガ二やアカザエビを獲る深海カゴやヌタウナギの筒漁業など小田原では皆と違うユニークな漁業を営んでいた。昼休みに港を散歩している時に顔を合わせると笑顔で挨拶をくれ、漁模様や漁具の工夫を熱心に話してくれ、昼休みを超過することもしばしばあった。

知らせは9月9日の土曜の朝、彼が所属する漁協の参事さんからカゴが上げ掛けの漁船が発見され、本人が不明というものであった。早速、所属の調査船のスタッフに出動の連絡を取り、漁協に向うと漁協内ではひっきりなしで電話が鳴り響き緊迫した状況が伝わってきた。

港では多くの組合員が捜索のためにスタンバイしており、早出の遊漁船も続々引き返して来た。早速、漁協において海上保安部、警察も含めた発見時の状況、事故発生と思われる前日夕刻からの気象、海象情報等を交換し捜索態勢の打ち合せが行われた。

その後、捜索のため参集した組合員に組合長から状況説明と相模湾沿岸の各地、さらには静岡県の漁船も捜索に協力してくれていることが報告され、仲間のために3日間休漁し組合員一丸となって捜索に当たることが要請された。秋の漁に向けて、また土日とあって多くの予約を受けている遊魚船等各々事情はあろうが、静かに頷く顔があった。

捜索は約50隻の船が港口に横一列に体形を組んで司令船の指示の元、見事な形で始まった。まだ、肌を刺すような暑さの中で、日没近くまで東に西にと何往復もしながら行き交う漁船を眺め、胸に熱いものがこみ上げてきた。

結局、捜索最後の月曜日でも発見することが出来ず、捜索は終了したが、真っ赤に日焼けし疲れ切った顔で船から上がるなり「彼が大好きだった酒やビールを海にまいてきたよ」という声があちこちで聞かれ、皆の無念さが伝わってきた。

仲間を思い懸命の捜索に当たった姿に海の男たちの強い絆を感じさせられると共につくづくライフジャケットの装着の必要性を痛感した。

一人操業の彼の身に何が起きたのかは分からないが、このような状況を目の当たりにすると本人の安全のためと言うに及ばず、いざ何か起きたときに仕事も放り出して懸命に捜索してくれる多くの仲間のためにもと思うのである。浮いてさえすればあれだけの体制であれば発見出来たのではないか…。

今週末で3週間が経とうとしている。彼は得意としていた深海で静かに横たわっているのだろうか？心から冥福を祈る。そして二度とこのような事故が起きないことを。

○相模湾西岸のアカナマコ
~~~~~~

（相模湾試験場　木下　淳司）

　相模湾西岸の岩礁域には冬季を中心にマナマコ（アカナマコ）が多数分布する。近年輸出向けのナマコ買い付け業者が訪れ、相場が急上昇している。漁業者は収入増になったが、乱獲による資源の枯渇を心配する声が漁業者自身から上がった。またマナマコは水産重要種でありながら、未だ資源生態学的知見が乏しい。そこで平成１７年度よりアカナマコの資源生態を明らかにして資源管理に役立てる取り組みを開始したので紹介したい。

相模湾沿岸には３３種以上のナマコ類が分布し、食用となるものはマナマコの他、フジナマコ、オキナマコである。平成１８年３－４月に相模湾西岸の３ヶ所で潜水調査を行い、アカナマコの重量を調べたところ、それぞれ平均３９７ｇ、２９８ｇ、２０３ｇと大きな差が見られた。漁獲強度の違いは影響していないと推測された。

　最もアカナマコが小さかった場所は、コンクリートブロックを設置した潜堤（人工リーフ）であり、海底の基質の違いが影響した可能性がある。商品価値の低いクロナマコの割合は低く、６０８個体について調べたところ９７%がアカナマコであり、クロナマコは３%にすぎなかった。アカナマコの鉛直分布は水深５－１１ｍで１．９－０．７個体／平方メートルの最大値を示し、５ｍ以浅と１１－１４ｍでは０．３個体／平方メートル以下と低密度であった。水深５ｍ以浅については漁獲による減少と考えられた。

　水深１１ｍ－１４ｍは岩礁から砂浜帯への移行域であり、アカナマコの生息基盤が少ないためと考えられた。相模湾西岸のアカナマコの密度は、他の代表的産地に匹敵したが、分布する水深帯が狭いため資源量は多くないと考えられた。今後は漁業者との協働による資源動向の把握、資源保護のための生態調査（鉛直分布、繁殖期、稚ナマコの棲息場、夏眠場の把握）、種苗放流による増殖および資源の持続的利用を念頭においた漁業の実施を目指して取り組みを継続したい。

　ところで、これまで私が研究対象とした生物は、クラゲとカジメにナマコ・・・なぜかフニャフニャした奴らばかり。そういうフェチなのかなー？

　相模湾西岸のアカナマコ http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582829.html

----

[お詫びと訂正]

　メルマガNo.157「磯遊びと規制」の文中、「神奈川県では、川崎市と横浜市の沿岸以外のすべての沿岸域に共同漁業権が設定されていますが」との記載をしてしまいましたが、「川崎市及び横浜市以外の大部分の沿岸には共同漁業権が設定されています」の誤りでした。

　誤解を招く表現で申し訳ありませんでした。

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/

発行：神奈川県水産技術センター　広報部会
住所：〒238-0237　神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311
ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

メルマガTOPへ

神奈川県

このページの所管所属は 水産技術センター です。

掲載日：2014年2月21日

神奈川県水産技術センター メールマガジン163

相模湾西岸のアカナマコ

アカナマコが生息する磯

相模湾西岸のアカナマコ

記事に戻る

神奈川県

このページの所管所属は 水産技術センター です。

掲載日：2014年2月21日

神奈川県水産技術センター メルマガ164

神奈川県水産技術センターメルマガ　VOL.164 2006-10-6

－－ Fish-mag >°)))< －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

／KN／　神奈川県水産技術センターメールマガジン　VOL.164 2006-10-6

~~~~~~

□研究員コラム

○昨今の漁具開発研究について　（相模湾試験場　石黒　雄一）

○「思考能力が低下します・・・」　（相澤　康）

○昨今の漁具開発研究について

（相模湾試験場　石黒　雄一）

相模湾試験場では、定置網や小型底びき網の漁具改良開発試験という題目でこれまで、様々な試験研究を行ってきました。一昔前までは、漁具試験といえば、どうしたら沢山の魚介類を効率的に獲れるか、といったことが１つの大きな目的になっていたのですが、資源管理という言葉が叫ばれるようになると、どうしたら特定の魚介類を獲らないようにするか、といったことが漁具試験の１つの目的になってきました。どういうことかというと、必要な魚介類だけを選択的に漁獲し、市場価値の低い小型の魚介類を漁獲しないようにして、資源を大事にしようということです。また、日本海で大発生した大型クラゲ”エチゼンクラゲ”のように、網に入ったら厄介になる魚介類やゴミを、網に入らないようにする(漁獲しないようにする)、といった研究も行われています。

では本来、魚介類を沢山獲ろうと改良されてきた漁具を、どのようにして必要なものだけ漁獲できるようにするのか、ということなのですが、何を目的に漁獲し、何を逃がすかで様々な方法が考えられています。

一番単純なのが、1つの魚種を対象とした、小さなものは逃がして、大きな商品価値の高い魚介類を選択的に漁獲するという方法です。要は網の目の大きさ（「目合」と言います）を大きくして、小さいものだけが網目をすり抜けて逃げられるようにするのです。一見簡単そうに思えますが、なかなか単純には行きません。魚をサイズで分ける場合、網目を抜けられるかそうでないかは、胴周長（人間で言えば“ウェスト”？に相当）で決まるのですが、魚は鰭などの突起物があるし、柔らかい、網地の方も形が変化するなど様々な要素があり、さらに商品サイズとそうでないものとの胴周長の差は僅かなので、スパッときれいに分けることは難しいのです。商品価値の有る魚介類まで逃がしてしまっては、漁業者に受け入れてもらえませんから･･･。

また、単一魚種だけを狙って漁獲する場合はその魚種だけのサイズで目合を調整すればよいのですが、多種多様な魚介類の中から選択的に漁獲する場合、獲りたい魚介類より大きなものを逃がさなければならないことも出てきます。こうなると網目の大きさだけでは不可能で、魚介類の生息場所（海底にへばりついているのか離れているのかなど）や行動様式を調べて、網を上下2段にしたり、網を部分的に大きな目にしたりといったことが行われています。

獲ることから逃がすことへ、漁具試験の目的は時代とともに変わっていきますが、いかに永続的に水産資源を利用できるか（地先の魚を美味しくいつまでも食べられるか･･･）、このことに少しでも貢献できればと思っています。

○「思考能力が低下します・・・」

（内水面試験場　相澤　康）

内水面試験場では、魚の生態調査のために、潜水を行うことがあります。潜水では高圧ガス症や低体温症の障害で思考能力が低下することが知られています。事故が起きないように注意を払っているので、ここまではなりませんが、それでも「思考能力が低下します・・・」、そんなお話を。

重たい潜水器具を身につけて、春なお冷たい湖にエントリー。スーツを着ていても体は芯まで冷えて、手先足先顔面が悴んできます。作業してエグジット。水中では感じなかった体重と装備品の重さがドッとのしかかってきます。そして、次の地点へ。

これを繰り返していると、疲れと冷えのため、段々とボーっとしてきます。調査潜水なので、魚類、尾数、水深等々のデータを取らなければなりません。
~~~~~~

私は普段から物忘れが激しいのですが、水中で疲労困憊した状況では、それに磨きがかかります。ほんの数個のデータを記憶・記録することも難しくなってきます。こんな時「我ながら、頭が鈍ってきたなあ」と自虐的に自己観察。

それでも頑張って水中作業を続けていると・・・。私の考えていることは普段からアホらしいですが、水中で疲労困憊した状況では、それに磨きがかかります。水中作業をしていると、ダイバーに興味を持ったブラックバスが寄ってきます。右に行けば右に、左に行けば左についてきて、キョロキョロとよく動く目でこちらの顔を覗き込んできます。バスと目を合わせながら「こいつら賢そうだなあ。芸でも仕込んで見物させたら、金儲けできるんじゃないか」とか、ダイバーには無関心で湖底の泥をバフバフしているコイを眺めていると、「その偉そうな髭を切って、フナ顔にしてやろうか」とか考えつつ「我ながらアホなこと考えているなあ。」と自虐的に自己観察。

疲労や冷えで体が動かなくなり、おまけに頭が鈍ってアホな事を考えるようになったら、無理は禁物。作業終了の頃合です。

パトリック・ロビンソン原作の本格海洋軍事スリラー「キロ・クラス」には、こんなシーンがあります。ロシア最新鋭キロ級潜水艦の破壊を目指す海軍特殊部隊のダイバーが「無理をしないことだ、絶対に無理はしない・・・死にそうなほど疲れきって、短い祈りを唱えながら限界と闘った・・・」。この小説のクライマックスです。私の調査潜水では「無理をしないことだ、絶対に無理はしない・・・死にそうなほど疲れきって、鈍い頭でアホなことを考えていた・・・」でしょうか。

それでも、魚を観察しつつ、「思考能力が低下した・・・」自分を、自虐的に自己観察するのも、中々オツなものですよ。

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/

発行：神奈川県水産技術センター　広報部会
住所：〒238-0237　神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子
電話：046(882)2311
ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

メルマガTOPへ

神奈川県

このページの所管所属は 水産技術センター です。

掲載日：2014年2月19日

神奈川県水産技術センター メルマガ165

－－ Fish-mag >°)))< －－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

／KN／　神奈川県水産技術センターメールマガジン　VOL.165 2006-10-13

~~~~~~

□研究員コラム

○コイがハゼになる？　（内水面試験場　原　日出夫）

○内水面試験場の夏休み　（内水面試験場　蓑宮　敦）

○コイがハゼになる？

（内水面試験場　原　日出夫）

　最初に申し上げておきますが，「昨日まで水槽を泳いでいたコイが翌日にハゼになっていた。」という話ではありません。また，「最先端の科学技術でコイをハゼに変えることに成功した。」という話でもありません。それではどういう話なのか・・・。

平成16年４月から７月にかけて，県内河川においてコイヘルペスウイルス病によるコイの大量死が頻発しました。コイヘルペスの報道が盛んに行われ，水産関係者だけでなく一般の方々も大いに関心を寄せていた頃の話です。

その情報は，「○○川の河口部でコイが死亡している。」というものでした。死亡魚の回収，現状把握及び検体の運搬など迅速に対応するため河川管理者，市，行政センター（現在は地域県政総合センター），水産課及び内水面試験場の連携が開始されました。内水面試験場はコイヘルペスウイルス病による死亡か否か確認するためPCR検査の準備に取り掛かりました。

ところが，担当者が現地に到着すると，どうも様子が違います。30－40cmのコイがプカプカと浮いていることはなく，岸に打ち上げられていることもありません。よくよく観察すると数センチのハゼが死んでいたそうです。これに似た話でコイがフナになったこともありました。情報の確認の重要性を感じました。

現在，コイヘルペス病はほとんど発生していません。また，この病気の発生の特徴（１.コイのみ死亡（他の魚も死亡していたら他の原因の可能性大），２.大量死，３.死亡が数日以上継続，４.水温が15℃以上など）が判ってきました。

このため，検査する前に次の事項を確認していますので，ご協力のほどお願いします。

Q1死亡はコイだけですか？Q２死亡数は？Q3発生期間は？Q４水温は何℃ですか？

○内水面試験場の夏休み

（内水面試験場　蓑宮　敦）

　この頃は朝晩が冷え込み、すっかり秋らしくなってきました。寒さが厳しくなると、夏の陽射しが恋しくなります。皆様にとって、今年の夏は如何でしたか？私は夏休みを利用して、沖縄県の石垣島と西表島へ行ってきました。これまでのメルマガは、調査・研究のエピソードでしたが、今回は番外編として、私の石垣・西表紀行をご紹介します。

私を含め内水面試験場から３名と友人２名で"生き物観察隊"を結成して石垣・西表島に行きました。普段から調査で魚を捕っているのに、休みにまでそんなことするのか？と言われそうですが（実際に他の職員には言われています。）、フィールドが異なれば生物相も異なるので、とても楽しいものです。

　例えば、淡水産のテナガエビ類は、神奈川県では、テナガエビ、ミナミテナガエビ、ヒラテテナガエビの３種しか確認できませんが、沖縄県では、ミナミテナガエビ、ヒラテテナガエビ、コンジンテナガエビ（写真１）、オオテナガエビ、ザラテナガエビ、ネッタイテナガエビ（写真２）、ヒラアシテナガエビ、コツノガエビ（写真３）、ツブテナガエビ（写真４）、ショキタテナガエビと10種もいるのです。

種類数が３倍も多いので３倍も楽しいと言うことですが、空港で手網や叉手網等を預ける時は、ちょっとだけ恥ずかしい思いをします。
~~~~~~

今回は、隊員各々が意中の生物に出会えたことや台風の影響が無かったこと等非常に充実していました。一番の成果は、友人の悲願であったヨロイボウズハゼ（写真５）とフデハゼ（写真６）に出会えたことです。この２種を見るために幾度も沖縄を訪れていた彼は、長年の目標達成に「俺の旅も終わったな！」と呟いていました。

そして、残念だったことは、夜間観察中に至る所で外来種のオオヒキガエルが現れ、石垣島にも深刻な外来種問題が存在することを痛感したことでした。また隊員の中には、クモ、昆虫、両生・爬虫類等が好きな者もいて、私たちが川で魚捕りをしている間に、照りつける陽射しの中、青い海にも目をくれずに３時間も朽ち木の樹皮を剥がしていました。彼の努力が報われ、マダラサソリに出会えたのですが、実際には、集合時間が過ぎても戻らない彼を迎えに行った者が、お付き合い程度に剥がした樹皮の裏側で確認したそうです（迎えに行った後、５分程度の出来事だったそうです。）。

こんな生き物観察隊の夏が終わり、ようやく日常生活に馴れて来た頃、友人が「次はカキイロヒメボウズハゼだ！」と言ってきました。本種は、日本では屋久島で１個体が確認されているだけという非常に珍しいハゼです。「そんなに確認数の少ない種は無理だよ」と私が言うと、「パラオには結構いるらしいよ！」と即答した彼。やれやれ、彼の旅はまだまだ続きそうです。

http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p757294.html

■水総研メールマガジン（毎週金曜日発行）
■配信の変更、解除は、こちらから↓
http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/mailmag/

発行：神奈川県水産技術センター　広報部会

住所：〒238-0237　神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子

電話：046(882)2311

ご意見・お問い合わせ：fish.415@pref.kanagawa.jp

メルマガTOPへ

神奈川県

このページの所管所属は 水産技術センター です。

掲載日：2014年2月19日

神奈川県水産技術センター メールマガジン165

内水面試験場の夏休み

写真1　コンジンテナガエビ

写真２　ネッタイテナガエビ

写真３　コツノテナガエビ

写真４　ツブテナガエビ

写真５　ヨロイボウズハゼ

写真６　フデハゼ

記事に戻る

神奈川県

このページの所管所属は 水産技術センター です。